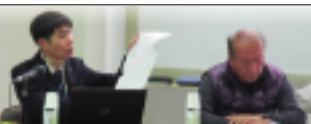


できることを、できるときに!!



災害ボランティア養成講座開催!

『台風19号による南足柄市の被害を見つめ直す』

令和2年
1月23日(木)
りんどう会館

市内に床上・下浸水や土砂崩れ、断水などの被害をもたらした台風19号。今回の体験を踏まえ、その教訓を今後活かす機会とするために振り返りました。当日は、市防災安全課班長 春日直也さんから風水害についての講義のほか、被害の大きかった地蔵堂地区の状況報告、災害ボランティアチームDARSTによるグループワークが行われました。

今回の記事では、その中から地蔵堂地区の状況について取り上げます。語り手は、地蔵堂自治会長の佐藤功作さん。講座では、時間の経過にそって、当時の様子を話していただきました。

夜7時過ぎ、雨が更に強くなつたので、状況の確認のため外にでると、泥水が川となって道路を流れていました。裏山の土砂崩れにより、屋敷の庭や田んぼが土砂で埋まり、杉の木も道路に押し出されました。消防に出動要請をしましたが、県道は寸断されてしまい、地蔵堂にはたどり着けませんでした。夜9時半くらい、雨が小降りになつてから徒歩で人家の様子を見まわりましたが、暗闇のなかで川の濁流音が無気味に響き、とても不安を感じました。

被害の爪痕はまだ大きく残っています。自然災害の怖さを今まで以上に感じました。住民は指定避難所である北足柄小学校へ避難しませんでした。移動の問題、体育館の設備など理由は様々だと思います。自治会としては、地区内の安全な場所に小さくても良いので避難できる建物が欲しいです。非常時でも、顔見知り同士が寄り添えれば、安心で、心強いと思います。

「行政や社協、関係機関との協力・情報共享ができるのか?」「見えてきた課題を行って検討する必要がある」「自分たちで何とかしよう、生き抜こうという意識を持ちたい」等の声があがりました。

講座を終えて・・・

今回の講座を通して、非常時に「できること」、平時に「できること」を、地域に暮らす一人ひとりがそれぞれの立場や場面から考えることができました。社協も、社協が「できること」を再確認し、地域に発信することができるよう、しっかりと取り組んでいきたいと思います。

(事務局)

10月12日 台風上陸

記憶にない豪雨

土砂や倒木により県道が寸断
地蔵堂自治会長 佐藤功作さん



お茶畠のり面が崩れる

被害の爪痕はまだ大きく残っています。自然災害の怖さを今まで以上に感じました。住民は指定避難所である北足柄小学校へ避難しませんでした。移動の問題、体育館の設備など理由は様々だと思います。自治会としては、地区内の安全な場所に小さくても良いので避難できる建物が欲しいです。非常時でも、顔見知り同士が寄り添えれば、安心で、心強いと思います。

振り返ってみて 課題は「避難場所」



ブルーシートで応急処置

今回の講座を通して、非常時に「できること」、平時に「できること」を、地域に暮らす一人ひとりがそれぞれの立場や場面から考えることができました。社協も、社協が「できること」を再確認し、地域に発信することができるよう、しっかりと取り組んでいきたいと思います。

10月13日 深刻な被害を確認
生かされた「つながり」

講義 「風水害について」
市防災安全課 班長 春日直也さん

夜が明けて、地区をまわつてみると、あちこちが崩落し、傷んだ状態で静かな地区が一変した光景に動搖とショックを隠せませんでした。幸いにも住民の生命や家の倒壊はありませんでしたが、家屋の被害は深刻で、床下や表庭に土砂の流入が見られました。車や農機具への被害も多数あり、被害にあつた人々は、朝から片付けに追われていました。自治会で何ができるかを考え、まずは、土砂の取り除き作業が最優先と判断し、自治会員に呼びかけたところ、男性8名がスコップを持って駆けつけ、土砂の運び出しをしてくれました。また、女性会員は昼食の炊出しを快く引き受けてくれるなど、小さな自治会だからこそ、普段からのつながりが活かされたように思います。

「グル」ワークから ～参加者の声～

映像を使って現状を説明しました。「災害が発生してすぐに対応できるよう、平時から整理して形を作りたい」と、神奈川自主防災航空機による撮影した無人航空機による「今後の災害に向け関係機関と話し合っていきたい」と話されました。

